

一一、月舟禪師の墓

○本堂(西向)及庫裡(南向)より田地を隔てたる北方山麓の小高き所にあり。塋域に於て中央の最も大なる塔を開祖月舟禪師の墓となす。苔むして文字解り難し、上林師の案内によりて恭しく焼香を了せり。

月舟禪師の墓を中心にして、左右に歴代住持の墓あり。即ち卍山禪師の墓は向つて左方にして開祖禪師の墓に隣る。是亦苔むせるも、『二世卍山』の刻字及『爪牙髮塔』の刻字は明瞭に之を認識し得たり。

一二、曹源和尚三會錄 上中下三卷三冊

○本書中に於て卍山禪師に關係ある文偈を索めて左の數首を得たり。本師は即ち卍山禪師也。

本師老和尚遊寺地山ト大乘境有偈見記次韻奉祝

横渡犀川到上方葱々佳氣映嵐光正知靈地越凡境宜剪荒榛開道場北海鯨瀾轟
法鼓東流犀水饒慈航我師莫袖神通手要見樓臺金碧粧

寄源光白龍禪師

牽犁拽杷舉先宗我匪楊岐君九峰觀面

相呈無別事笑擎一盞密雲龍

奉賀本師老和尚訴官革宗弊

叔世風澆宗弊頻我師誓要復淳真官衙一照明如鏡祖道中興迅似神號令電馳三
萬寺功名山重幾千春喜見古錦鴛鴦被妙手織成文彩新

以上

靈芝觀音拾得の場そはいづこ。閱覽終り拜了じ、今昔を俯仰して感無量。暇を告げつゝ歸途に就く。濛々たる梅天の雲、潺湲たる路畦の水、一として懐古の種ならぬはなし。

丙 卍山會記事

大正七年卍山會を創設し事務所を洛北鷹峯源光菴に置き左の主意書を發布す。

卍山會主意書

洛北鷹峯曹洞宗源光菴は元祿年間曹洞宗統の紊亂を憂へ挺身復古の大業を達成し靈元法皇の寵命をさへ蒙りて道譽一世に高かりし復古道人卍山道白禪師の創建し遷化せられたる靈蹟にして、寺内には復古堂あり、墳墓あり、曹洞宗護法之碑あり、卍山廣録版藏あり、宗統復古に關する貴重なる古文書及禪師の墨蹟遺物も今尙ほ多く儼存せり、今茲に禪師の高風を思慕する者皆謀つて卍山會を組織し卍山禪師遺物の保存調査編纂等の事業を遂行し兼ねて源光菴を江湖に紹介せんとす同志の士贊助あらむ

ことを乞ふ。

大正七年六月

發起人

卍山會

石川素堂	五十川春芳	原山道仙	秦惠昭	西野宏峯
西尾關仲	西村喜一郎	丘宗潭	沖津元機	大内青巒
大森禪戒	大森知言	丘球學	小田垣瑞麟	若生國榮
梶川乾堂	上林眞學	上村觀光	神阪雪佳	横尾賢宗
吉田寛隨	高田道見	高島莫能	多々良覺道	玉田仁齡
土橋嘉兵衛	霖玉仙	内藤湖南	文學博士 村上專精	上田大法
上田祥山	確井小三郎	來馬琢道	山田孝道	山田大啓
増田雪巖	文學博士 松本文三郎	松野知次郎	孤峰智燦	秋野孝道
新井石禪	足立宗法	佐藤鐵額	文學博士 佐々木珍龍	佐藤大忍
阪野貞祐	岸澤惟安	岩本宗國	文學博士 三浦周行	水野道秀
三井啓明	宮部悦巖	新出	森口惠徹	森田清之助
鈴木雄峯	源光庵住職 鷹峯透關	同應法類總代 原山道仙	同末寺總代 峯仙巖	

卍山會事業

源光菴檀徒及世話方 石束仁三郎 岸本龜之助 中田安次郎 迫田徳太郎
 若松彌三郎 小林友次郎 森田茂祐 尾川泰藏
 瀧野房吉 石束市右衛門

- 一、卍山文書の調査及編纂（調査編纂の上は一本を源光菴に保存し一本を京都帝國大學に保存を請ふこと）
 - 二、卍山禪師事蹟の編纂（編纂の上は刊行して汎く有志に頒つ）
 - 三、卍山禪師遺蹟の表彰
 - 四、卍山禪師遺物及源光菴寶物の展観
 - 五、復古堂の修理
 - 六、毎年九月十九日卍山忌の復興
- 同年九月二十七日復興第一回卍山忌及卍山會發會式舉行（但九月十九日を石川素童師の都合により二十七日まで延期せり）同日禪師遺物及源光菴寶物の展観

式順序

- 一、開會の辭（小田垣瑞麟師）
 - 二、發會の祝詞（光悅寺住職種ヶ湖圓師）
（圓通寺住職若生國榮師）
 - 三、出斑焼香
 - 四、疏（石川素童師）
 - 五、香語（石川素童師）
 - 六、祭詞（文學博士三浦周行氏）
- 石川素童師の疏は岸澤惟安師の選にかゝり全文左の如し。
- 京都府愛宕郡鷹峯村鷹峯山寶樹林源光菴
焼香比丘素童等

今月今日恭遇

開山正山道白大和尚禪師追慕報恩正山會之辰 虔備香華燈燭湯菓茶微膳 以
伸供養 恭集現前清衆 遠誦參同契寶鏡三昧 所集殊動上酬慈恩者 伏以
洞山正宗 叔世幾奏新豐古曲
太祖復肉 午後重奔黑漆崑崙
祝髮於五雲線叟 蒼松朶々映帶天

嗣法於大乘舟翁 珊瑚枝枝撐着月
同誠飲水共休戚 其孝維純
報恩設拜開鉢華 其悟維實
提鋤斧襲後 移蘭若乎城南疊翠之幽
橫櫛栗沒蹤 甘米湯乎洛北絕塵之境
欽慕靈山端嚴 林曰寶樹
歎羨楷祖枯淡 塢號芙蓉
龍池上 飽聽耳畔鳴泉
鷹峰頭 貪看天邊霽月
零露積經行迹 孤猿嘯烟清吟高低
墜葉飄苦砌痕 清鐘送雨遠神緬邈
固辭大中法柄 三却萬松聘禮
校定正法眼藏 發揮往聖未發要機
梓行栢樹清規 闡揚列祖正傳真訣
捏扭竹筒鼻孔 面授之篇

豁開木樓眼睛 佛道之卷

提起鐵案 活捉龍吟

標榜宗門大事 七佛威儀萬古聯綿

安厝禪戒閑名 如來禪牀六返震動

要教群世游 昆盧海

一任要人謗 正法輪

每慨嗣承將錯就 錯分因院易師

奮欲申理以藤纏 藤兮扶衰救弊

公慶鐵眼二哲匠 迺欣迺歎俱浮孤舟

梅峰田翁兩禪師 相推相援同訴幕府

一片慈心 如鑊湯無冷處

打徹悲願 似鐵壁絕縫罅

天涯地角輝々昱々 遺囑日輝

深山幽谷玲々瓏々 鈞令月照

城邑不居 齊門豈把梓桐瑟

大功不宰 隱棲閑彈瑠璃琴

妙在轉處 獨解翻身

會侯請益正偏 慕直豎一指

上皇歸嚮德臘 慰勸謝沈痾

如藥橋接李翺 似溜州達帝敕

墮愚墮魯 千佛伎倆不留些兒

礙聖礙凡 老僧命脈無復一縷

不會師翁老婆心 作則時節忘却疇昔快活

落節伊人老境界 盛雪銀盃變作田家瓦盆

異童子夢畫禪 北方古聖應化

虛空神告上足 瑩山曩祖再來

底事秋風忽捲地 全身入塔石中蓮

雖然石無古今 世歷二百餘載

蓮有開落 人發菩提道心

青山羅列如兒孫 何謂待伴

綠水潺湲似箏笛 可以罄歡

仰冀勿吝來儀

速享齋供 謹疏

維時大正七年九月二十七日

鷹峯山寶樹林源光菴燒香比丘素童 謹疏

同香語は左の如し。

衆德莊嚴萃其身 宗門復古命維新

後進開發卍山會 永答偉功幾萬人

恭以

此一片香爇向大爐 供養當山開祖卍山道白大和尚 以驚動大寂定中閑夢

要眞慈應現一如生前雖然恁麼遠孫刻船聲聽眼處哉聽耳處哉鑑在機前喝

鷹嶺秋清吹寶樹 源光月照轉霜輪

大正八年十月 卍山禪師の書簡の調査を、京都帝國大學國史研究室に委託し、終了して源光菴文書

(冊子)成る。

同年七月 卍山忌を永久に繼續し、其他、會の目的を達成する爲め卍山講會を設立す。

同年十月十九日 復興卍山忌第二回舉行、但九月十九日を一ヶ月繰延べ秋涼の好季を選び、本年より

十月十九日とし爾後毎年同日に執行することに決す。

大正九年十月十九日 復興卍山忌第三回舉行。

大正十年十月十九日 同 第四回舉行。

大正十一年十月十九日 同 第五回舉行。

大正十二年十月十九日 同 第六回舉行。

大正十三年十月十九日 同 第七回舉行。

大正十四年七月 卍山禪師傳記『傑僧卍山』脱稿す、但森田清之助の編著にかゝり、文學博士三浦周行氏、高橋竹迷師の校閲を経たり。

同年七月二十六日 『傑僧卍山』の巻頭に掲載すべき文學博士三浦周行氏序文成り寄贈せらる。

同年九月十二日 同上山田孝道師序文成り、寄贈せらる。

同年同月十七日 曹洞宗大本山總持寺貫首新井石禪師より題字揮灑寄贈せらる。

同年十月十九日 卍山忌第八回舉行。

同年十二月十四日 卍山禪師木像、同自畫賛、源光菴の寫眞を撮影す。

同年同月十九日 『傑僧卍山』原稿訂正補遺完成す。

同年同月二十一日 小田垣瑞麟、鷹峯透關、森田清之助、源光菴に會し『傑僧卍山』の奥書を定の、

同日同菴に於て原稿全部を内外出版株式會社々員北島竹次郎氏に手交し、印刷製本を託す。

同年同月三十日 曹洞宗大本山永平守貫首北野元峰師より題字揮灑寄贈せらる。

大正十五年一月七日 寫真撮影の原版、及題字原本を内外出版株式會社に送致す。

同十五年二月十九日 『傑僧卍山』印刷完了(頁數通計三六七頁)

傑僧卍山 終

大正十五年二月十九日印刷
大正十五年二月廿五日發行

定價金參圓五拾錢

著作者 森田清之助

京都市外鷹峯源光庵内

發行者 卍山會

代表者 鷹峯透關

印刷者 須磨勘兵衛

京都市下京區北小路新町西入

印刷所 内外出版株式會社印刷部

京都市西洞院通七條南入

發行所 卍山會

不許
複製

發賣元

電話五九一九番
振替大阪一五四〇番
振替東京八四四參番

京都市上京區二條通木屋町

貝葉書院

RI 3F
-74



終